

北見工業大学学報

第 296 号 (2019 年 11 月号)

目 次

入 学 式	令和元年度秋季大学院入学式を挙行……………	3
研 究 助 成	令和元年度外部資金の受入状況……………	4
人 事	人事異動……………	5
受 賞	社会環境系の川尻峻三准教授、齊藤剛彦助教が第 39 回土木学会 地震工学研究発表会において優秀講演賞を受賞……………	6
	本学理事・副学長 川村彰教授が「北海道発明協会会長賞」を受賞……………	7
諸 報	地域を対象とした社会貢献活動等を実施……………	8
	緑児童センターで出前体験学習を実施……………	9
	遠軽高校との高大連携協定に基づく事業を実施……………	10
	中央小学校「親子でサイエンス」を実施……………	11
	職員表彰式を挙行……………	12
	ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催……………	13
	Bio Japan 2019 北海道ブースに出展……………	14
	消防訓練を実施……………	15
	オープンアクセスウィーク 2019 ポスター展示を実施……………	16
	本学学部生が地域 PBL 成果発表で最優秀賞を受賞……………	17
	アメリカエリザベス市 Union County College と国際交流協定を締結……………	18
	学生選書ツアーを実施……………	19
	道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を開催……………	20
	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	21
	オホーツク・スマート農業セミナー2019【酪農・畜産】に参加……………	22

	父母懇談会（秋季 東京・札幌）を開催……………	23
	メッセナゴヤ 2019 北海道ブースへ出展……………	24
	第 33 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展……………	25
	メンタルヘルス研修を実施……………	26
	2019 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に参加……………	27
	第四回ハッカソン in 北見を開催……………	28
	北海道中小企業家同友会オホーツク支部「オホーツク☆未来塾」を開催……………	29
	アグリビジネス創出フェア 2019 に出展……………	30
	永年勤務者表彰式を挙……………	31
	(株)北見ハッカ通商との共同研究講座設置について報道発表を実施……………	32
	常呂小学校で出前理科実験を実施……………	33
計	報 亀丸俊一教授……………	34
日	誌 10 月・11 月……………	35

= 入学式 =

令和元年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

令和元年度秋季大学院入学式が、10月1日(火)午前10時から本学第1会議室で行われました。

鈴木聡一郎学長から、留学生3人の入学が許可された後、「留学に際し、支援や協力をいただいているご家族や本学の教職員、そして地域の方々への感謝の気持ちを忘れず

に、素晴らしいエンジニアあるいは研究者を目指して、充実した大学院生活を送ってください」と激励の言葉がありました。

引き続き、総務課長から役職員等の紹介が行われました。

入学者は次のとおりです。

大学院工学研究科博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
情報システム工学専攻	1

大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	2



入学式に臨む新入生



お祝いの言葉を述べる鈴木学長

= 研究助成 =

令和元年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和元年10月1日から 令和元年11月30日までの合計		前号までの合計		令和元年度累計	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	10	7,134	107	90,966	117	98,100
受託研究	3	6,807	9	27,489	12	34,296
奨学寄附金	13	11,080	52	45,277	65	56,357

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
元. 11. 30	総務課事務職員	浅野 竜也	辞職

= 受賞 =

社会環境系の川尻峻三准教授、齊藤剛彦助教が第 39 回土木学会 地震工学研究発表会において優秀講演賞を受賞

(社会環境系)

この度、川尻峻三准教授（社会環境系、地域と歩む防災研究センター）と齊藤剛彦助教（社会環境系）が、第 39 回土木学会地震工学研究発表会において優秀講演賞を受賞しました。

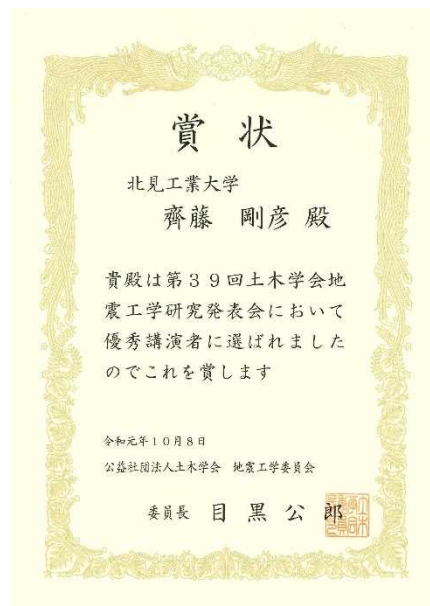
本発表会は 10 月 7 日（月）～8 日（火）、公益社団法人土木学会 地震工学委員会が主催し、大阪府吹田市の関西大学千里山キャンパスにおいて開催されたもので、本賞は、40 歳未満で特に優れた講演を行った若手研究者、技術者を表彰するものです。

川尻准教授の講演題目は「平成 30 年北海道胆振東部地震で被災した宅地造成盛

土の被災後の S 波速度分布」であり、地震によって大規模な液状化被害が発生した札幌市清田区里塚地区において、地震直後から札幌市と共同で実施した地盤調査に関する成果を報告したものです。

齊藤助教の講演題目は「高減衰ゴム支承のひずみ量と面圧の違いによる温度依存性の実験的検討」であり、本学の社会連携推進センターにある低温室で実施した、橋梁の免震ゴム支承の載荷実験による研究成果を報告したものです。

両者とも、講演内容が高く評価されて、今回の受賞となりました。



川村彰理事・副学長が「北海道発明協会会長賞」を受賞

(研究協力課)

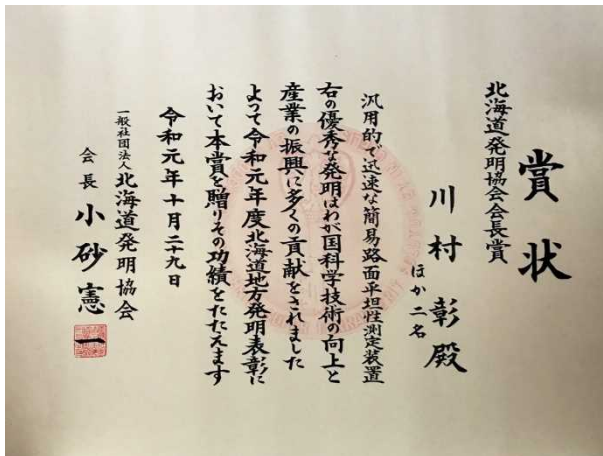
本学理事・副学長の川村彰教授が、公益社団法人発明協会が実施する令和元年度北海道地方発明表彰において、「北海道発明協会会長賞」を受賞しました。本表彰は、全国を8地方に分けて実施されており、各地方において優れた発明等を創出した技術者・研究開発者を顕彰するものです。

今回、受賞となった特許は「汎用的で迅速な簡易路面平坦性測定装置（特許第5226437号）」であり、株式会社共和電業様及び株式会社ワークム北海道様との共同所有のものです。

この発明は、道路利用者の快適性、車両

走行費用及び沿道環境と密接に関係のある路面の平坦性について、コンパクトな加速度計を汎用車のサスペンションと車体に設置することにより、迅速かつ安価にモニタリングする装置です。路面の平坦性指標である国際ラフネス指標（IRI）を道路点検時に簡易かつリアルタイムに算出することを可能とし、安価で小型の加速度センサーを採用したことが特徴です。

10月29日（火）に帯広市内で行われた授賞式に川村理事も出席し、賞状等が授与されました。



= 諸報 =

地域を対象とした社会貢献活動等を実施

(研究協力課)

北見工業大学では本学における教育・研究活動を地域へ還元するため「社会貢献プログラム」をはじめ、出張講義や科学実験、研究室見学の受入や講演などを社会貢献活動として無償で提供しています。

今年度も、地域の小中学校やその他教育

機関、自治体からの依頼に基づき、下記のイベント等に協力しました。

今後もこうした活動を通じて、本学で行われる教育・研究活動を周知するとともに、地域に根差した社会貢献活動を継続したいと考えています。

日 程	依頼者・イベント名等	担当教員	実施テーマ
9月5日(火) 11月7日(木)	北見市立美山小学校 ものづくりクラブ活動協力	地域国際系 有田敏彦教授	炭酸水の生成及び液体窒素の実験
11月3日(日)	2019 青少年のための「科学の祭典」北見大会	応用化学系 岡崎文保准教授他	液体窒素の実験
11月7日(木)	遠軽町生田原教育センター しらかば大学	社会環境系 亀田貴雄教授	「南極での越冬観測および雪氷研究」
11月8日(金)	陸別町立陸別小学校、陸別中学校出張講義	社会環境系 亀田貴雄教授	「雪結晶の不思議」、 「君も学者や博士になろう」
11月9日(土)	りくべつ宇宙地球科学館 (銀河の森天文台) 驚き!おもしろ科学実験 2019	応用化学系 岡崎文保准教授	液体窒素の実験
11月16日(土)	北見市立南小学校「土曜学校」 (北見市教育委員会事業)	機械電気系 林田和宏教授 応用化学系 岡崎文保准教授 情報通信系 酒井大輔准教授	「虹をつくろう」、 「スライムづくり」、 「振動発電で地球に優しいエネルギーを学ぼう」など



「しらかば大学」の学生に講演を行う亀田教授



北見市立南小学校「土曜学校」の様子

緑児童センターで出前体験学習を実施

(技 術 部)

9月30日(月)、今年度で3回目となる「出前体験学習」を北見市緑児童センターで実施しました。

実施テーマは①キューブパズルを作ろう、②風船ホバークラフトを作って走らせよう、③かさふくろ飛行機を作って飛ばそう、④マグナスcupどこまで飛ばせる、⑤むらさきキャベツの色をかえよう、⑥折って丸めてどこまで耐える紙の橋、の6つで、それぞれをブース形式で行い、主に緑小学校、大正小学校に通う児童27人が参加しました。

開催は午後からの3時間と長時間でした

が、お母さんがお迎えに来て「まだ遊ぶ！」とだだをこねる子もいるほど夢中になっていました。

アンケート結果からは「おもしろかった(100%)」、「また参加したい(100%)」と大好評で、子どもたちはものづくりの楽しさを体感できたものと思います。

開催にご尽力いただきました北見市子ども未来部青少年課、緑児童センターの職員の皆さまおよび関係各位に深く感謝申し上げます。



高得点めざし、風船をはしらせる



キューブパズル作製中



記録更新？ 紙の橋強度実験



未来のノーベル賞候補

遠軽高校との高大連携協定に基づく事業を実施

(学 務 課)

本学は、北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定を締結しています。本協定は、本学と北海道遠軽高等学校が連携することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に平成 25 年度に締結したものです。この協定に基づき、下記の事業を実施しました。

★遠軽高校ピアサポート事業

10 月 5 日（土）、本学学生 12 人が遠軽高校を訪ね、遠軽高校生に対し、数学を教える事業「遠軽高校ピアサポート」を実施しました。

本事業は、本学学生が指導方法を体得することを目的として実施しているものです。ピアサポート大学生が遠軽高校生につきっきりで学習指導を行いました。

参加した高校生 10 人からは、「丁寧に教えてくれてわかりやすかった」、「いろいろ楽しい話ができて楽しかった」などの感想が聞かれました。また、本学学生からは、「教えることの難しさを実感した」、「高校生だけでなく自分たち大学生にとっても貴重な経験になった」などの感想が寄せられ、それぞれ充実した 1 日となった様子でした。

★異校種連携事業

11 月 13 日（水）に遠軽高校で開催された「遠軽町異校種連携の日」に本学から 3 つの講座を開設しました。

本事業は、小・中・高校及び道内大学の連携により、系統的なキャリア教育の推進を目的として実施しているものです。

本学開催の講座『「温度」って何だろう？－温度と熱の関係－』、『液状化実験ボトルを作ってみよう』、『極低温を体験しよう！！』に遠軽町内の小学 6 年生及び中学 2 年生約 120 人が参加し、それぞれ実験を行いました。

参加した小・中学生は、普段触れることのない大学の研究に触れ、科学に対する興味を持つとともに、学習意欲への大きな刺激を受けたようでした。

本学では、今後もこれらの事業を継続するとともに、遠軽高校との高大連携協力の更なる連携強化を図っていこうと考えています。



本学学生から数学を教わる高校生



実験を行う中学生

中央小学校「親子でサイエンス」を実施

(技 術 部)

10月5日(土)、北見市立中央小学校において「親子でサイエンス」を実施しました。

この催しは、昨年の三楽児童センターでの出前体験学習を見聞きした中央小学校のPTAの方から、PTA行事として中央小学校でも行いたいとの要望を受けて実施したものです。

内容はほぼ同様ですが、時間は少し短めの2時間、さらに全体を2部構成に分け、前半1時間半は①キューブパズルを作ろう、②風船ホバークラフトを作って走らせよう、③かさふくろ飛行機を作って飛ばそう、④

マグナスcupどこまで飛ばせる、⑤折って丸めてどこまで耐える紙の橋、の5テーマをブース形式で、後半30分は化学実験として「むらさきキャベツの色をかえよう」を行いました。

保護者26人、児童34人の参加のもと、限られた時間でしたが工学に多少とも興味を持ってもらえたものと思います。

機会を設けて頂きました中央小学校PTA教養部の皆さまおよび関係各位に深く感謝申し上げます。



お母さんが手助けするもの・・・
(キューブパズル)



気分はカーリング？
(風船ホバークラフト)



お父さんもお母さんも一緒になって
(かさふくろ飛行機)



興味津々化学の実験
(むらさきキャベツの色をかえよう)

職員表彰式を挙

(総務課)

10月7日(月)、令和元年度国立大学法人北見工業大学職員表彰式が第2会議室において挙行されました。

鈴木聡一郎学長から被表彰者に対し、表

彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、輝かしい功績の数々に対する敬意とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学職員表彰被表彰者 (50音順)

氏名	成果等
杉坂 純一郎 安井 崇 平山 浩一	電子情報通信学会論文賞受賞
野田 由美意	外部資金獲得によりドイツ・ラインラント地方の近現代美術に係る日本初の国際シンポジウムに係る企画・運営・研究発表を実施



職員表彰式被表彰者

ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催

(情報図書課)

10月9日(水)、本学図書館コミュニケーションホールを会場として、読書推進の学生ボランティア団体であるブック・プロジェクト(BP)主催による「全国大学ビブリオバトル2019」の予選会を開催しました。

今年の発表者は、BPの中から3年生2人、4年生1人、大学院生1人の計4人で、発表者がそれぞれ自分のおすすめ本を熱心にプレゼンし、質疑応答の時間では観戦者か

らたくさんの質問があがりました。

投票の結果、山口つばさ著「ブルー・ピリオド」をプレゼンした川原宏樹さん(博士前期課程 マテリアル工学専攻2年)が、チャンプ本を獲得しました。

11月17日(日)には旭川で北海道地区決戦が行われ、川原さんは惜しくも全国大会に進出することはできませんでしたが、本学の代表として健闘してくれました。



ビブリオバトル開催の様子

Bio Japan 2019 北海道ブースに出展

(社会連携推進センター)

10月9日(水)～11日(金)の3日間、パシフィコ横浜を会場にBio Japan2019が開催されました。

本イベントはバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントで、国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加しました。ブース展示の他、セミナーやプレゼンテーションが行われ、研究機関や企業などの最新の研究成果が紹介されました。同時開催の再生医療Japan2019と合わせて来場者は1万7千人にのぼり、イベントの規模は過去最大となりました。

本学は一昨年度から北海道庁、札幌市、

ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に出展しています。今年度は、道内の学術・研究機関が取り組む医療系シーズを取りまとめた「北海道健康・医療研究シーズ集」に掲載されている4つの研究についてパネル展示を行い、工学的視点からの医療分野への取り組みについて紹介しました。

国内外から広く参加者が集まる本イベントは、本学の研究を広くアピールできる貴重な機会のひとつです。既に次年度の開催も決定しており、今後も出展を継続していきたいと考えています。



北海道バイオクラスターブースの様子

消防訓練を実施

(施設課)

10月18日(金)、震度5強の地震に伴う火災発生を想定した訓練を実施しました。

訓練当日は3号館の学生および教職員、事務職員の約80人が参加しました。訓練は本学3号館4階オホーツク農林水産工学連携研究推進センター実験室1を仮想火元として、第一発見者である学生の通報から始まり、学生や教員による初期消火、自衛消防隊による避難誘導および救助活動等を実施しました。

避難訓練に続き、屋内消火栓の取扱説明・放水訓練、消火器の取扱訓練も実施し

ました。消火器取扱訓練では、北見地区消防組合本部の署員による使用説明の後、本物の消火器の代わりに訓練用の水消火器を使い、消火訓練を行いました。消火器取扱訓練終了後は、立ち会った消防署署員から講評をいただきました。

消防訓練の最後には、鈴木聡一郎学長から夜遅くまで実験を行う学生が増える時期なので、実験器具の扱いには十分に注意すること等の挨拶をいただき、訓練は無事終了しました。



発見者(学生)による通報



学長による挨拶

オープンアクセスウィーク 2019 ポスター展示を実施

(情報図書課)

オープンアクセスとは、学術研究成果を誰でも無料でインターネットを通じて自由に利用できるようにすることで、オープンアクセスウィークは、2008年にアメリカで立ち上がって以後毎年10月に開催されているオープンアクセスの意義を周知するイベントです。2019年のテーマは「”Open for Whom? Equity in Open Knowledge” 誰のためのオープン化？ オープンな知識における平等を考えよう」でした。

本学でもこのオープンアクセスウィーク

に合わせて、10月18日（金）～28日（月）にポスター展示を行いました。展示ではオープンアクセスの意義や本学の機関リポジトリKIT-R（きつとあーる）をPRし、チラシも配布しました。

学術雑誌の価格が高騰し、学術論文にアクセスできる機会が減ってしまうことが懸念される中、オープンアクセスは研究成果の共有と再利用を進める手段として有効です。ぜひ研究者の皆さまはKIT-Rでの学術研究成果の公開にご協力をお願いいたします。



ポスター展示の様子（4号館講義室前）



配布したチラシ

本学学部生が地域 PBL 成果発表会で最優秀賞を受賞

(学長企画室)

10月20日(日)、本学が参画している「オール北海道雇用創出・若者定着プロジェクト(COC+北海道)」の一環として、COC+参加校9校(5大学、4高専)による地域PBL(課題解決型授業)の成果発表会が札幌市地下歩行空間にて開催され、本学から松尾涼太さん(地域未来デザイン工学科3年)と宇

佐見智也さん(地域未来デザイン工学科3年)が参加しました。

成果発表会では、学生・教員による授業成果についてのプレゼンテーション及び各参加校のブースにおいてポスター発表が行われ、審査の結果、松尾さんが最優秀賞を受賞しました。

発表テーマ

松尾涼太「町内会のタイムライン作成による防災意識の向上」

宇佐見智也「オホーツク観光バスツアー」

オール北海道雇用創出・若者定着プロジェクト(COC+北海道) HP

<http://cocplus.hokkaido.jp/>



授賞式の様子



宇佐見さん(左)と松尾さん(右)

アメリカ・エリザベス市 Union County College と 国際交流協定を締結

(国際交流センター)

10月22日(火)、鈴木聡一郎学長はじめ本学関係者5人がアメリカ・ニュージャージー州エリザベス市のユニオンカレッジ(UCC)を訪問し、同校との国際交流協定を締結しました。

UCCは1933年にニュージャージー州で最初に設立された2年制大学で、英語以外にEngineering、Computer Science、Automotive Technology、Biology、Chemistryなどのカリキュラムを含む80の基礎コースプログラムが設定されています。

UCCが位置するエリザベス市は北見市と姉妹都市であり、今年姉妹都市提携50周年記念に訪問団が派遣されました。調印式にはエリザベス市長と北見市長にも臨席いただき、多くの人々に見守られながらマーガレット M. マクメナミン学長と鈴木学長が調印を執り行いました。

本協定は、本学学生のグローバル化を促進すると共に、地域の国際化や国際交流の発展への貢献が期待されており、今後の更なる交流に関心が寄せられています。



調印の様子



握手を交わすマクメナミン学長(左)と鈴木学長(右)

学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

10月23日(水)、コーチャンフォー北見店において、令和元年度第2回「学生選書ツアー」を実施しました。

本企画は、図書館に配架する本を書店で学生に選んでもらうもので、学生がおもしろいと感じ、必要とされる本を、学生の目線で選んでもらうことを目的としています。

今回は「読書が楽しくなる本」、「工大生に読んでほしい本」、「興味・関心が広がる本」のいずれかのテーマのもと、選書を行

いました。当日は、学部生5人、大学院生1人の合計6人が参加し、合計46冊の本が選書されました。

今回選ばれた本は図書館の展示コーナーにおいて、選んだ理由を記載したカードと併せて令和2年1月10日(金)まで展示しています。

ぜひ図書館にお越しいただき、本学の学生が選んだ本をご覧ください。



店内で選書する参加者

道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を開催

(総務課)

10月25日(金)、令和元年度道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を開催しました。

同懇談会は、道内の国立高等専門学校(高専)と工学系大学等が抱える諸課題について協議し、意見・情報交換等を行うことを目的として毎年行われているもので、今年度は本学を当番大学として開催しました。

懇談会では、鈴木聡一郎学長の挨拶の後、平成31年4月に公立大学として開学した公立千歳科学技術大学の加入が審議・承認され、構成校は5大学・4高専になりました。

その後、大学・高専との連携教育、データ・サイエンス教育、高専からの編入学等について活発な意見交換が行われ、懇談会は盛会のうちに終了しました。



懇談会の様子

社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(社会連携推進センター)

10月28日(月)、本学において社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催しました。

本会議は、オホーツク地域の経済発展及び地域活性化を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」として委嘱を行い、地域における産学官連携に関する協議・情報交換等を行っているものです。

本学からの話題提供として「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(略称CAFFÈ)の活動」、「地域と歩む防災研究センター(略称SAFER)の設置について」及び「学生の地域定着を目指す取組み(COC+事業)に係る報告と今後の活動について」と題してそれぞれ説明を行いました。

始めに、昨年7月に設置したCAFFÈの取組みについて、村田美樹センター長から現在CAFFÈで研究されている具体的な取組みについて動画などを交えて紹介がありました。

次に今年5月に設置されたSAFERの川尻峻三センター長が、旧北見競馬場で行っている実物大の実験設備などの紹介を行い、

地域のニーズに対応した取組みを継続するため、各自治体や機関から引き続き協力をいただきたいと依頼しました。

続いて、学生の地域定着を目指す取組み(COC+事業)について、鞘師守特任教授から、卒業生を北海道に定着させるためには地元からの入学者を増加させることと、インターンシップなどを通じて地域にある企業の魅力を正しく伝えることが大切であるとの説明がありました。

いずれのテーマも地域と関連が大きいことから、これらの取組みに対して各自治体・機関から関係するそれぞれの課題や現状の取組み、今後本学との協力の在り方等に御発言をいただき、本学が地域から強い期待を寄せられていることを再確認する会議となりました。

本会議出席者は総勢32人となり、産学官連携推進員・協力員及び大学関係者が一堂に会して意見交換を行ったことは大変有意義な機会であったと思います。今後もこの会議を有効に活用し地域に貢献する大学として、地域との連携、課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。



有田敏彦社会連携推進センター長の挨拶



会議の様子

オホーツク・スマート農業セミナー2019【酪農・畜産】に参加

(社会連携推進センター)

11月1日(金)、「オホーツク・スマート農業セミナー2019【酪農・畜産】」が浜佐呂間活性化センターを会場に開催されました。

本セミナーは、オホーツク総合振興局や農業関係機関が構成員として参加するオホーツク・スマート農業推進会議が主催するもので、農業従事者や研究機関、官公庁などから75人の参加がありました。会場ではセミナーの他、スマート農業に関連する本学を含む6団体・企業の展示が行われました。

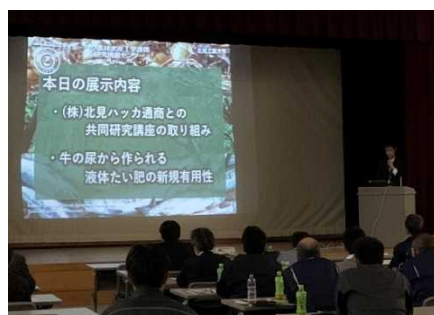
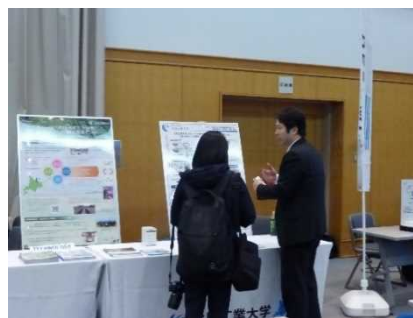
本学はオホーツク農林水産工学連携研究推進センターにおける小西正朗教授の「牛の尿から作られる液体たい肥の新規有用性」、霜鳥慈岳准教授の「北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター

と株式会社北見ハッカ通商共同研究講座の取り組み」についてパネル展示を行いました。会場では、邱泰瑛助教と大学院生の加藤勇太さんが来場者へ説明を行いました。また、セミナー終了後のブース出展者 PR では、産学官連携コーディネーターの三枝昌弘氏がオホーツク農林水産工学連携研究推進センターとその取り組みについて紹介しました。

本セミナーへの参加は農業従事者の声を直接聞くことのできる貴重な場となり、また他機関との連携強化に繋がる機会にもなりました。今後も一次産業を工学的な視点で支援する本学の取り組みを広く PR していきます。



パネル展示の様子



ブース展示 PR の様子

父母懇談会（秋季 東京・札幌）を開催

（学 務 課）

例年開催している父母懇談会(秋季)を、東京は11月4日(月)に学術総合センター、札幌は11月24日(日)に北海道大学学術交流会館を会場としてそれぞれ実施しました。

東京会場には78組、札幌会場には66組の保護者が参加し、いずれの会場とも個別面談では、修学状況、就職等について保護者から質問が出され、熱心にやりとりが交わされました。また、控え室に設けた職員

による個別相談コーナーでも、奨学金や就職、カリキュラムなどについて熱心なやりとりが交わされました。

参加した保護者からは「このような懇談会は、とてもよいので、今後も続けていただきたいと思いました。」「大学の様子や今後について知りたかったことを丁寧に話していただいてよくわかりました。」などの声が寄せられました。



個別面談の様子

メッセナゴヤ 2019 北海道ブースへ出展

(社会連携推進センター)

11月6日(水)～9日(土)の4日間、ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)を会場にメッセナゴヤ 2019 が開催されました。

本展示会は中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のものづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。展示会場では各種セミナーの開催や学生の就職支援の他、昨年引き続き東日本・熊本復興支援コーナーが設けられるなど、様々な催しが行われました。1400 機関を超える企業・団体が出展し、来場者は約6万2千人にのびりました。

北海道庁では、中京圏市場に対し北海道内企業や学術機関の高度な技術・製品等のアピールを目的として、北海道ブースを設

けています。北海道の企業や学術機関が有する自動車関連技術、医療、エネルギー、環境関連技術、そして寒冷地技術を活かした新エネルギー・省エネルギー化などの取り組みに焦点をあてた展示を行い、16の企業・団体・自治体と本学を含む3大学が出展しました。

本学は、社会環境系 富山和也准教授が取り組む「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測」について紹介しました。6日、7日の2日間は富山准教授と天池竜輔さん(博士前期課程 社会環境工学専攻2年)が来場者への説明を行いました。

本学は中京圏出身の学生が多く、名古屋で行われた本展示会への参加は、大学広報の面からも貴重な場となりました。



イベント会場の様子

第 33 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11月7日（木）、8日（金）の2日間、アクセスサッポロを会場に第33回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）が開催されました。

本イベントは北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し開催している北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントです。今年度は330の企業・団体が参加し、約2万1千人の来場者が訪れました。また、今回から寒冷地のエネルギー利用に関する「スマートエネルギーフォーラム2019」も同時開催され、より一層盛況となりました。

本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」において、今年5月に設置された「地域と歩む防災研究センター（通称：SAFER）」に

ついてパネル展示と紹介を行いました。会場では、同センター突発災害調査研究部門長の宮森保紀准教授が説明を行い、来場者は熱心に耳を傾けていました。また、札幌近郊の高校生も見学に訪れ、入試案内など本学の紹介も行いました。

本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の卒業生が数多く訪れます。仕事の面での興味だけでなく懐かしさに惹かれて立ち寄るなど、母校への愛着を垣間見ることができます。

本イベントは就職等の情報収集にも大変役立つ良い機会でもあり、本学を紹介することの重要性を再確認する場となりました。



開会式の様子



説明を行う宮森准教授（写真左）

メンタルヘルス研修を実施

(総務課)

11月14日(木)、メンタルヘルス研修を実施し、教職員約60人が参加しました。

本研修は、メンタルヘルスに関する理解を深めるとともに、自分のストレス耐性を高め、日ごろの注意点・対策方法を習得するなど、健全な労働環境を確保することを目的としています。

講師として、白川純子特任助教に最近の日本のメンタルヘルス対策の現状やワーク・エンゲイジメント等について研修していただき、参加した教職員は熱心に聴き入りながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めていました。



研修の様子

2019 アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoに参加

(社会連携推進センター)

11月15日(金)、16日(土)の2日間、サッポロファクトリーを会場に「2019アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoー北海道の食と農の明日へー」が開催されました。NPO法人グリーンテクノバンクが主催し、11月20日(水)～22日(金)に東京ビッグサイトで開催される「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけの本イベントには、食や農業に関する約30の企業・団体が出展しました。

今回はオホーツク農林水産工学連携研究推進センターの紹介と同センターにおける霜鳥慈岳准教授の「北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターと株式会社北見ハッカ通商との共同研究講座の取り組み」、「工学連携推進型6次産業人材育成事業(以下、工農事業)」のパネル展示を行いました。また、16日に行われたステージイベント「ここが見どころ!」では

霜鳥准教授が研究内容や同センターの取り組みについて紹介しました。共同出展の北見市雇用創造協議会からは、工農事業の受講生が開発に携わった「トマトのアランチーネ」、「ハッカチョコレート」、「ローズマリーグミ」、「乾燥鮭のちゃんちゃん焼き」の試食も行われ、多くの来場者の興味を集めました。本学ブースではこれら商品に関するアンケートも行い、今後の商品開発において有益な情報を得ることができました。

会場ではブースプレゼンテーションも開催され、多くの方に本学ブースを訪れていただきました。本学の卒業生も来場し、本学の最近の動向に興味を持っていただきました。「ビジネスEXPO」と同様、本学卒業生への近況報告や就職活動、入試案内など、様々な面で意義の深い場となりました。



プレゼンテーションを行う霜鳥准教授



本学ブースの様子

第四回ハッカソン in 北見を開催

(学術推進機構)

11月16日(土)、17日(日)の2日間にわたり、「第四回ハッカソン」が本学17号館及び講堂で開催されました。

ハッカソンとは、限られた期間内で開発チームごとにソフトウェア開発等を企画段階から行い、開発技術やソフトウェアの活用方法、それらを盛り込んだプレゼンテーションを行って完成度を競い合うものです。本大会は主催者である(株)アイエンターをはじめ、本学、北見市、その他北海道内外のIT企業の協力の下、毎年開催されており、今回は46人、14チームが集まりました。

参加者は協賛企業の現役技術者からアドバイスを受けながらスマートフォン用アプリケーション、VRソフトウェア、スマートスピーカー用ソフトウェアなど五つの分野に分かれてチームごとに試行錯誤しながら2日間それぞれの作業に没頭しました。

参加者が開発したソフトウェアなどについては、2日目の午後に講堂ステージで各チーム3分間のプレゼンテーションが行われ、本学教員や企業関係者が審査員となり、アイデアや波及効果などを基準に選考が行われました。その結果「魚をスマートフォンで撮影し、画像を読み込ませることで種別や名前を特定して表示させる」という想定WEBサービスを作成したチームに大賞が贈られました。

総評として(株)アイエンター入江恭広代表取締役は「ハッカソン開始当初はアイデアソンの域を超えず、プレゼンテーションの時になかなか思うように動作しないといったことも多かったが、今回はそうしたチームがほぼ無かったため、年々完成度のレベルが高まっていることを実感しています。将来的に今回参加された学生の皆様と一緒に働くことができるよう願っています」と締めくくりました。



ソフトウェア開発の様子



各チームによるプレゼンテーション



関係者全員で集合写真

北海道中小企業家同友会オホーツク支部 「オホーツク☆未来塾」を開催

(学術推進機構)

11月18日(月)、本学多目的講義室において、北海道中小企業家同友会オホーツク支部(以下、同友会)主催による「オホーツク☆未来塾」が開催されました。

本取組みは本学と同友会が締結している包括連携実施覚書によるもので、地元の企業経営者に向けて本学から教育・研究内容や大学としての取組みなどについて情報提供する機会として昨年から開催されています。

今回は鈴木聡一郎学長が「道内三大学の経営統合とスポーツ科学による地方創生」と題して講演を行いました。スポーツ用品

メーカーにおいて実施していた研究内容を皮切りに、本学冬季スポーツ科学研究推進センターで研究されているプロスキーヤーの映像から3Dモデルを構築して滑降フォームを考察する、といった話題や本学・帯広畜産大学・小樽商科大学による三大学経営統合に係る本学の展望について幅広く情報発信を行いました。講演終了後には参加者から次々と質問が出るなど、盛況のうちに閉会の時間となりました。

本学は今後も様々な機会を通じて、教育・研究内容を地域社会へ発信していこうと考えています。



講演する鈴木学長



質疑の様子

アグリビジネス創出フェア 2019 に出展

(社会連携推進センター)

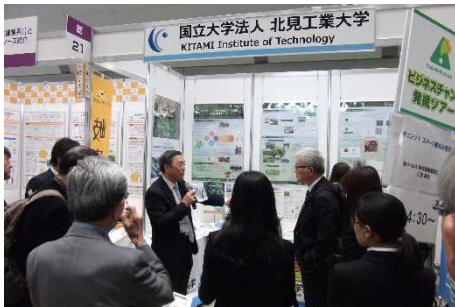
11月20日(水)～22日(金)の3日間、東京ビッグサイトでアグリビジネス創出フェア 2019 が開催されました。

本イベントは農林水産省が主催し、全国の公的機関等が有する農林水産・食品分野等の最新の研究成果を紹介することで、研究機関間や事業者との連携を促す場として開催されています。本学は平成19年度より毎年出展しており、今年度は全国から134機関が出展しました。

今回は、「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」と本学が平成18年度から実施している「工学連携推進型6次産業人材育成事業(以下、工農事業)」についての展示を行いました。21日には「ビジネスチャンス発掘ツアー」の参加者がブースを訪

問し、有田敏彦教授がスマート農業や工農連携の取り組みについて紹介しました。22日にはオホーツク農林水産工学連携研究推進センター長の村田美樹教授が、センターの概要や特色についてプレゼンテーションを行いました。また、工農事業の受講生が開発に携わった焼菓子・ハッカチョコレートを試食とアンケート調査も行われ、今後の製品開発に役立つ貴重な意見を伺うことができました。

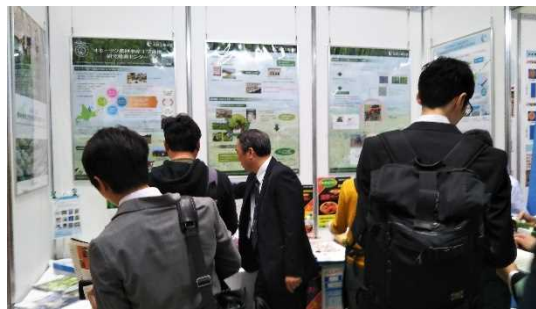
本イベントへの参加は、工学による農林水産業の支援・発展への貢献に向けた活動を知っていただく貴重な場となっています。本学は地域に生きる大学として、地域の核である第一次産業を支える研究について今後も広く紹介して行きたいと考えています。



「ビジネスチャンス発掘ツアー」の様子



村田センター長によるプレゼンテーション



本学ブースの様子

永年勤務者表彰式を挙る

(総務課)

11月21日(木)、令和元年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が第2会議室において挙行されました。

鈴木聡一郎学長から被表彰者に対し、表

彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者(50音順)

30年勤務者

氏名	所属学科等
岡崎文保	応用化学系
大森誠一	技術部

20年勤務者

氏名	所属学科等
八久保晶弘	社会環境系
鈴木正清	情報通信系
松沼拓夫	研究協力課
須澤啓一	技術部



永年勤務者表彰式被表彰者

(株)北見ハッカ通商との共同研究講座設置について報道発表を実施

(オホーツク農林水産工学連携研究推進センター)

11月26日(火)、(株)北見ハッカ通商と北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(通称:CAFFÈ)の共同研究講座設置についての報道発表を、北見市卸町の(株)北見ハッカ通商本社において行いました。

本共同研究講座は令和元年12月1日から5年間、本学1号館に開設します。中長期に渡る研究で安定した研究基盤が構築されることにより、研究のスピードアップ、効果的な展開とともに、事業戦略・製品戦略にあった確実な研究成果が期待できます。

また、企業と教員との日常的な連携が進捗されることにより、研究課題に対する研究分野の拡大、部局横断的な連携も期待で

きます。

報道発表では、複数のメディアが集まる中、(株)北見ハッカ通商の永田裕一代表取締役から挨拶と開設までの経緯を説明していただき、オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの村田美樹センター長と霜鳥慈岳准教授が共同研究講座の展望やこれまで行ってきた(株)北見ハッカ通商との共同研究の実績を紹介しました。

記者からは、地域のハッカ草やハッカ加工物の生産量に関する研究内容や、製品開発に関する具体的な構想など多くの質問が投げかけられ、今後の研究成果に地域からも多くの期待を寄せられている事が窺えました。



共同研究の実績を紹介する霜鳥准教授



発表後の写真撮影(左から小針助教、(株)北見ハッカ通商山田研究員、霜鳥准教授、永田代表取締役、村田センター長(教授)、大津教授、邱助教)

常呂小学校で出前理科実験を実施

(技 術 部)

11月26日(火)、北見市立常呂小学校において出前理科実験を実施しました。対象は6年生(21人)で理科の「電気の性質とその利用」に該当する内容です。

始めに基本実験として4~5人の班を作ってもらい、自動車、産業機器、家電、玩具などで幅広く使われている磁気近接スイッチを用いて、磁石を近づける・遠ざけることによって回路がON・OFFすることをLEDランプ、ブザー、プロペラで確認してもらいました。

その後、事務用品のテープカッターを利用したタイミングディスクモータを製作してもらいました。磁気近接スイッチと磁石

の位置関係が難しいのですが、ほとんどの児童が一回で完成し、電磁石によってプーリー(セロハンテープを取りつける部分)が勢いよく回転する様子に歓声の声があがりました。(回転せず苦戦する児童もいましたが、これは不良部品が混じっていたためです。大変ご迷惑をおかけいたしました)。45分間の授業時間のため駆け足での実験となりましたが、少しでも理科が好きになってくれたらと思います。

最後に、出前理科実験を快く受け入れていただきました櫻田弘道校長先生、6年生担任の三上真珠先生、並びに関係各位に感謝申し上げます。



理科が好きな人、の質問に手を挙げたのは2人だけでした・・・



テープカッターを利用したタイミングディスクモータの作製

= 訃報 =

訃 報



本学 亀丸俊一教授は、病氣療養中のところ令和元年 11 月 21 日にご逝去されました。享年 65 歳でした。

亀丸教授は、昭和 59 年に茨城大学工学部助手に採用され、平成 8 年 4 月に本学工学部教授、平成 11 年 4 月に情報システム工学科長、平成 18 年 4 月に情報処理センター長、平成 22 年 4 月に技術部長、平成 28 年 4 月に情報システム工学科長及び情報システム工学専攻主任等、数多くの重要な役職を歴任されておりました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

= 日誌 =

10 月

- 1日 秋季大学院入学式
- 2日 高大連携事業「数学Ⅲ補習講座」(～10日)
- 3日 学術情報機構統括会議
- 5日 高大連携事業「ピアサポート」
- 7日 役員会、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8日 インターンシップ事後研修会
- 9日 ビブリオバトル、Bio Japan 2019 (～11日)
- 10日 発明審査委員会
- 11日 教務委員会
- 15日 進路選択ガイダンス、編入学試験(第2次募集)出願受付(～21日)
- 16日 教育研究評議会、創立60周年記念事業委員会、学術情報委員会
- 17日 学生委員会
- 18日 消防訓練、オープンアクセスウィーク2019ポスター展示(～28日)
- 23日 学生選書ツアー
- 25日 国立高等専門学校長と工学系大学長等との懇談会、アドミッションセンター運営会議
- 28日 社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議、内定者向けセミナー
- 29日 就活女子応援セミナー

11 月

- 1日 推薦入試・帰国子女入試出願受付(～8日)、オホーツク・スマート農業セミナー2019
【酪農・畜産】
- 4日 父母懇談会(秋季・東京)
- 5日 進路選択ガイダンス、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6日 アドミッションセンター運営会議、メッセナゴヤ2019(～9日)
- 7日 教務委員会、ビジネスEXPO(～8日)
- 9日 官公庁合同セミナー
- 12日 編入学試験(第2次募集)学力検査・面接試験
- 13日 教育研究評議会、高大連携事業「異校種連携事業」、推薦入学者選抜実施委員会
- 14日 発明審査委員会
- 15日 2019アグリビジネス創出フェア in Hokkaido(～16日)
- 16日 ハッカソンin北見(～17日)
- 19日 進路選択ガイダンス、学生委員会
- 20日 アグリビジネス創出フェア2019(～22日)
- 22日 アドミッションセンター運営会議
- 23日 北海道合同企業セミナー
- 24日 父母懇談会(秋季・札幌)
- 25日 ホームページ専門委員会、推薦入学者選抜実施委員会
- 26日 (株)北見ハッカ通商との共同研究講座設置についての報道発表、進路選択ガイダンス
- 27日 役員会
- 28日 入学試験実施委員会
- 29日 推薦入学試験